

フォトラリー ～野馬土手をさがしにいこう！～

江戸時代、流山市には馬を放牧するところがありました。歴史を学んで、その跡を見に行こう！

★野馬土手って？

馬を放牧する場所「牧」から馬が外に出て人が住む村に入ってしまうないように、牧と村との境目につくられた土手です。高さ3メートルほどの土手と深さ1メートルほどの堀であわせて4メートルほどの高さがありましたが、完全には防げなかったようです。

市内に今でも残っているところがあります。実際に訪れて、確かめてみましょう！

★なぜ流山で馬を放牧していたの？

江戸時代、千葉県北西部の下総台地に江戸幕府の馬を育てるための牧が置かれました。そのうち、野田市から千葉市にかけて広がり、流山市の一部も含まれていたものが小金牧とよばれています。

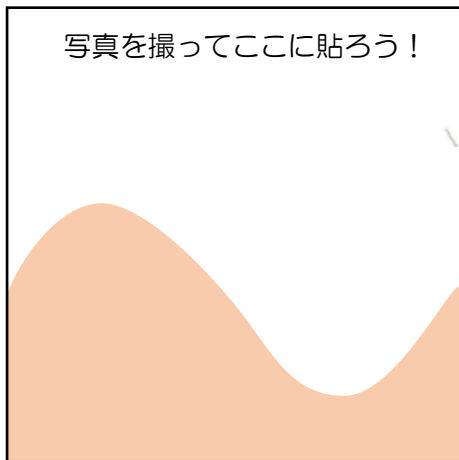
牧のまわりの村では役人や農民が管理を担当したり、馬をつかまえるときの人手として駆り出されたりしました。また、江戸時代の中頃から後半におこなわれた「鹿狩」では、シカやイノシシを狩り場まで追い込む「勢子」として近くの村から人が集められました。



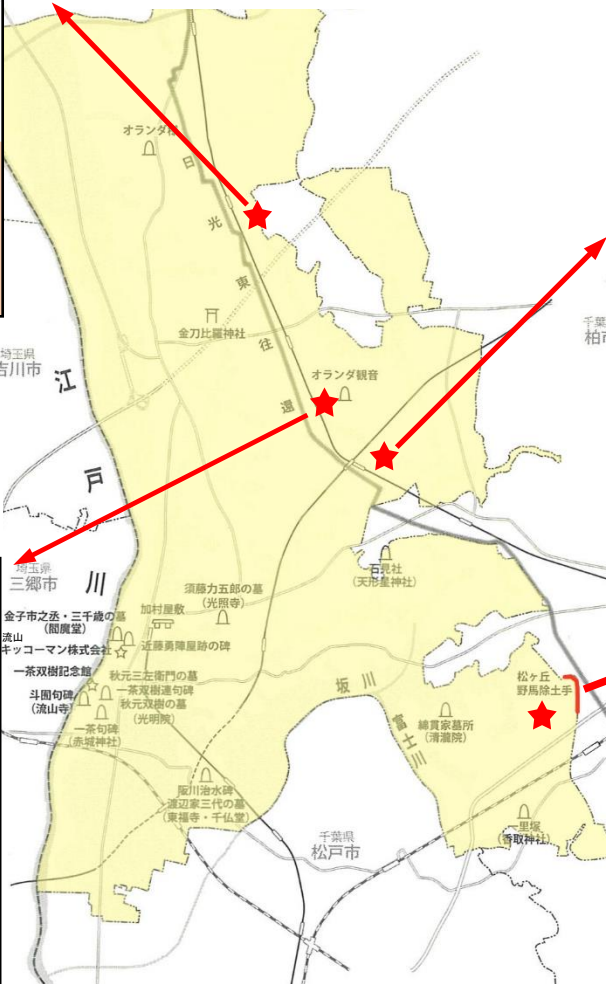
博物館で調べよう！

- 十太夫野馬土手
(おおたかの森東2丁目)
スーパーと霊園のあいだにある緑地や、おおたかの森東二号公園で、残っている野馬土手を見ることができます。

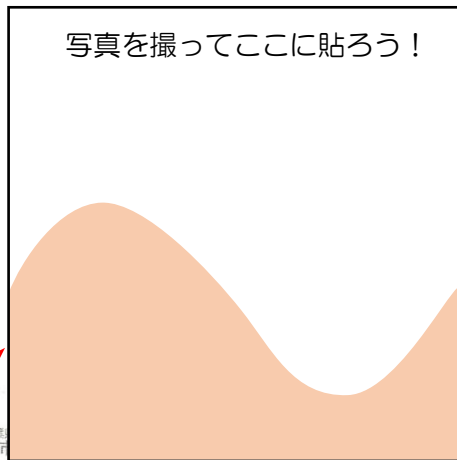
写真を撮ってここに貼ろう！



- 江戸川台東一丁目野馬土手
江戸川浄水場近く、江戸川台4号緑地にあります。

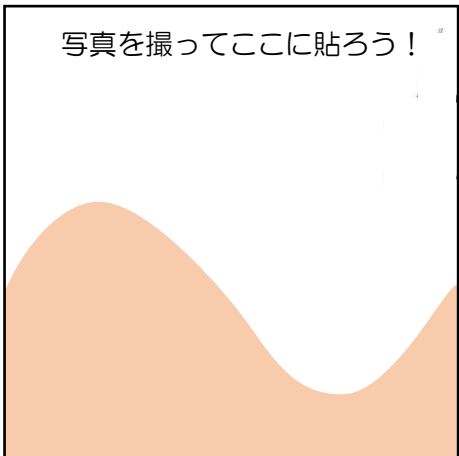


写真を撮ってここに貼ろう！



- オランダ観音
(おおたかの森北2丁目)

外国から来た馬が病死してしまい、それを村の人々がまつたと言われています。



- 松ヶ丘野馬土手(松ヶ丘1丁目)
柏市との市境にある野馬土手。約600mにわたって残っています。

写真を撮ってここに貼ろう！

